

KTK

NO.91

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

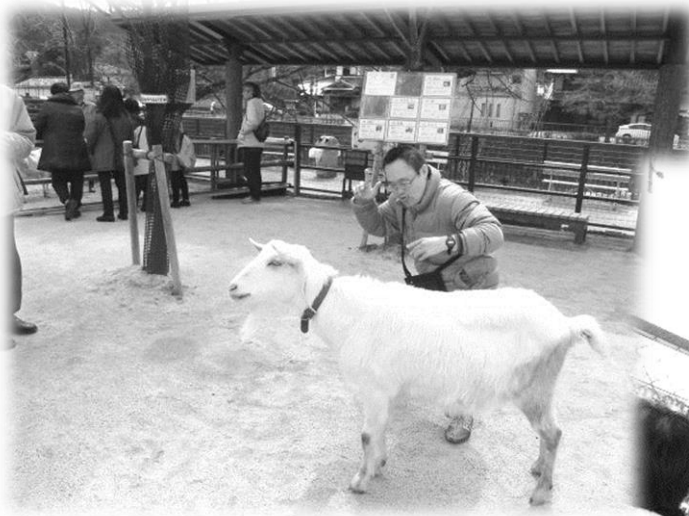
編集 集 あらぐさ後援会

編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会

〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3

TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

ワークセンター みんなで外出 動物園でふれあい



3月11日、ワークセンターのおでかけで京都市動物園へ行ってきました。ソウヤキリンが見たい！という意見の利用者さんが多く、動物園に決定しました。ヒツジやヤギとのふれあいコーナーでは、名前を呼んで楽しそうにふれあっている姿が見られました。昼食は、お好み焼き、ラーメン、パスタとそれぞれ好きな物を食べ、満足げな利用者さんたちでした。



‘三大オケ’ ミニコンサート



ぼくらの職場にオーケストラがやってきた

3月4日(水) 10:45~11:30に、あらぐさ福祉会の一階ホールで京都三大学合同交響楽団演奏のミニコンサートが行われました！このミニコンサートは、2月の中旬に楽団の方より、障害福祉の現場を知る機会として福祉施設でミニコンサートがしたいとの要望があり、また、あらぐさ福祉会としても、なかまたちが楽しめるミニコンサートをぜひ開催してもらいたいとの希望から急遽、実現したものでした。

この交響楽団は、京都府立医科大学、京都府立大学、京都工芸繊維大学の3つの大学の学生が集まる全国でも珍しいオーケストラで、通称“三大オケ”と呼ばれている交響楽団です。定期演奏会は年に二度行われており、春季は主に長岡京で、秋季は京都コンサートホールで行われています。

準備を重ね楽しめるコンサートへ

このような大きな楽団のミニコンサートを本当に開催できるのだろうか、またなかまたちが楽しみ、参加できるような内容にするにはどうしたらいいのだろう、など初めての取り組みで考えることは山積みでした。楽団の方とも話し合いをし、演奏とは別に「楽器体験」と「なかまたちとの合奏」の時間を作ることが決まりました。普段楽器を見たり触れることの少ないなかまたちに楽器に触れてもらいたい、そして、楽団の方と一緒に音楽を演奏し、楽しい時間を過ごしてもらいたいということがその大きな理由でした。その他にも、演奏曲や演奏時間、楽器の種類などの話し合いを重ね、何とか準備を間に合わ

せることができました。楽団の方にもミニコンサートのとてもかわいいチラシを作成してもらいました。なかまたちにも事前の飾り付けの準備をしてもらい、ミニコンサートの準備は万端でした。



美しい音色に大感激

そして、待ちに待ったミニコンサート当日！なかまたちの協力もあり、あっという間に会場の準備が出来上がりました。そして、なかまの挨拶から、ミニコンサートが始まりました。今回、ミニコンサートの司会を担当してくれたのは、デイセンター2のなかまです。手作りの蝶ネクタイをつけ、緊張しながらも大きな声で挨拶をしていました。演奏は、弦楽器で『となりのトトロ』『散歩』『川の流れるように』を、そして、木管楽器で『犬のおまわりさん』『崖の上のポニョ』を演奏してもらいました。とても美しい音色でなかまたちも大感激！手拍子をしたり、歌詞を口ずさんだりしてリズムに乗っていました。中には、立ち上がって踊りだすなかまもいたほどでした。

楽器鳴らしてしっかりポーズ

楽器体験の時間では、楽団の方になかまたちの席をまわってもらい、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロを直に触れて鳴らすことができました。なかまたちも普段触ることのない楽器を鳴らすことができ、大喜びでした。みんな楽器を持つポーズがしっかりと決まっていましたね♪



盛り上がったなかまたちとの合奏

その後の合奏では、楽団からお借りした打楽器のほかに、あらかさ福祉会にあるカスタネットやマラカス、タンバリンなどの楽器も使い、みんなで『崖

の上のポニョ』の合奏をしました。なかまたちも大盛り上がりでした！最後に、楽団の方へのお礼のクッキーを、デイセンター1のなかまに手渡してもらい、無事にミニコンサートを終了することが出来ました。

来年もぜひ開催したいね

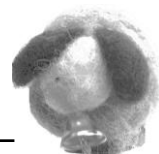
ミニコンサートという初めての取り組みでしたが、楽器を触ったり、楽団の方と一緒に演奏をすることができ、とても楽しい時間を過ごせましたね。楽器を通じて、楽団の方とも交流ができ良かったです。楽団の方からも「緊張したけど、利用者の方が演奏に合わせて歌を口ずさんでくれてうれしい」、「演奏したこちらも楽しかった、また来たい」との嬉しい感想を頂きました。

今回、楽団の関係者（当日は9名の出演）をはじめ、長岡京市障がい福祉課、京都新聞社など、いろいろな方のご協力を頂き、大成功のうちにミニコンサートを終了することが出来ました。ありがとうございました。来年もぜひ開催したいですね。



奇蹟的羊

—世界旅行・羊の旅—



<日時> 2015年9月6日(日)～11日(金)

10:00～17:00 (最終日のみ15:00まで)

ワークショップ 14:15～15:00 (日曜日は行いません)

<場所> アトリエ畔 (長岡京市粟生川久保2-5)

愛犬「ケイ」と一緒におおきくなったよ 仲間と紙すきをがんばっています

5月生まれのヒロ君は今年32才。2つ年上のお兄さんがいます。「あらぐさ」ではヒロ君の仕事は、牛乳パックを使った、和紙の紙すきです。

生い立ち—楽しかった保育所生活

家は滝ノ町。地元の横関産婦人科で生まれました。2歳検診で気になることがあり、京都の府立病院に受診しました。小さい頃は動きが速く、親子4人で大丸へ買物に行った時に行方不明になり、四条通りの反対側のパン屋さんでジュースをもらってそこから警察に連絡があり保護されたこともありました。

2歳～就学前までポニーの学校に週2回通園しました。3歳からは深田保育所にも通所しました。お友達はみんな仲良しで散歩にいたり、リズム遊びをしたり・・・楽しい保育園生活でした。加配の小池先生とは今も手紙のやりとりをしています。

西山の崖のぼりや一輪車に挑戦 — 向日が丘養護学校に入学

向日が丘養護学校に入学して1年間はお母さんが送迎しました。担任の先生と話したり、学校の様子を聞いたりしました。当時、ロープや木の根っこを持って無事高い崖を下りきったヒロ君の笑顔がステキだったと、担任の先生が話してくれました。

障がい児学童わっしょいクラブには1年生から参加しました。先輩のお母さん達や指導員の学生さんも、みんな頑張っていました。「こんな世界もあったんだ」と驚き、教えてもらうこともたくさんありました。

出産後股関節を痛めていたお母さんも障がいの違う子どもたちのグループに応援に入ったりしてみんなで助け合っていました。いろいろな機会を通して

他の障がいを持っている人たちのこともよく学びました。わっしょいクラブの取り組みでカラオケに行ったとき、ヒロ君はマイクを持って高音の歌声で「野に咲く花のように」を歌いました。そのときはみんなとてもびっくりしました。



6年生の時に初めて1年間寄宿舎に入りました。毎日の生活面での自立や、校外での放課後遊びなど充実した暮らしぶりでした。

その頃のお母さん達は仲良くみんなでカラオケに行ったり（時には先生も一緒に）子育ての話をしたりとても楽しい仲間でした。

中学部では担任の先生と友達のように親しくしていました。教室では、長い廊下を使った特訓で1人残らず一輪車に乗れるようになることを目標にいました。そしてヒロ君もこの時、一輪車に乗れるようになりました。

高等部では、さをり織や木工などに取り組んでいました。かなづちを使ったり、のこぎりで木を切ったり・・・ヒロ君は木工の仕事が好きでした。

進路の時期にはいろいろな希望はありましたが、「あらぐさ」に行くことになりました。まだ「あらぐさ」は無認可の頃、太鼓山の民家を借りた事業所へ通いました。

我が家の愛犬「ケイ」「ミッキー」 「マリー」「アステル」と共に

我が家の愛犬は「ブリタニースパニエル」というフランスの鳥猟犬で、現在は3代目です。仔犬が全国のあちこちにもらわれていっています。ヒロ君は犬が大好きでいつも「ケイクン、ケイクン」と呼んで仲良くしていました。4頭のブリタニエとの生活は子供たちの成長そのものでした。「ケイ」を迎えたことからスタートした愛犬連れの旅行は、キャンプから始まり、キャンピングカー、ペンションと形を変え、ワイルドで豊かな経験を積み重ねました。



仔犬たちを訪ねて旅をしたのも楽しい思い出です。今、3代目「アステル」は現役猟犬として、お父さんと野山をかけめぐっています。

家では毎朝、新聞を取りに行くのがヒロ君の日課です。連絡帳を出したり、カバンの用意をしたり、と自分で「あらぐさ」に出かける準備をしています。ホッコリタイムにはスポーツや音楽番組のテレビを見ています。夕方帰ってくるとおやつを食べお気に入りのテレビ（ちちんさいさい）を見てすごしています。

地域の友達と一緒に

小学校の時から中学のころまで長岡スイミング

（カエルのマーク）に行きました。普通のコースもありますが、障がい児だけのコースに参加しました。顔をつける事は苦手で泳ぐ事は難しいのですが、楽しく通いました。

休日は「あらぐさ」や若竹苑の友達と5～6人でヘルパーの制度を利用して外出しています。ヒロ君はヘルパーの篠原君のお兄ちゃんが大好きです。お兄ちゃんが事業所を変った時は契約していた事業所を変更してついでにきました。

お母さんの願い

最近は言葉が増えて理解も進んできました。こちらが何を伝えたいのか一生けん命、顔見て探しています。言葉や表情でのやりとりがとても豊かになってきました。

冷蔵庫から焼きそばの材料をみつけて「やきそば（を作って）」「やきそば（食べたい）」と母に言いに来て、母「今日はハンバーグよ。明日はやきそばにするからね」と本人とやりとりすると、納得できるようになりました。

生活の中では、苦手な人の声が気になったり、物の位置や方向をきっちりしないと気になってしまうというようなこだわりがあります。

お母さんは今は生活場面で痛みを伴う股関節の治療を早く始めたいと考えています。長期の入院加療のためにヒロ君を預ける事業所が見つかるだろうか？と不安をかかえています。

現在はヒロ君をショートステイに預けている間、母親の介護に通っています。

他の保護者の皆さんと一緒にケアホームを作る運動に参加してきました。今回は入所できませんでしたが、今後将来に展望を持てる様なグループホームの建設は切実な願いです。

（取材—前田幸子・真殿尊子）

報酬制度について



「障害福祉サービス」の報酬が4月から改定されました。「報酬」とは、事業者が利用者の皆さんに「障害福祉サービス」を提供した場合に、事業者を支払われる、国が定める費用のことです。

報道等によると、「改定率はプラスマイナス0%」とされ、介護保険の介護報酬が「マイナス2.27%」であったことから、少し安心する向きもありました。

しかし、詳細にしてみると、あらゆる事業では、「生活介護」（デイセンター）、「就労継続支援B型」（ワークセンター）、「居宅介護」（サポートセンター）の基本報酬単価がいずれも引き下げられました。一方で、30種類以上ある「加算」（「福祉専門職員配

置等加算」「人員配置体制加算」「処遇改善加算」などを付けることで、事業所の収入を維持・確保できるといった仕組みになりました。

このように、報酬制度が複雑化することで、利用者・家族の皆さんも、自分がいったいどの「加算」の対象になっているのか分かりにくく、事業者も請求実務が極めて煩雑なものになっています。

報酬制度を、「日額払い方式」から「月額払い方式」に改め、「加算方式」ではなく基本報酬を抜本的に引き上げることで、事業を安定して運営し、障害のある方々が、いつまでも安心して必要な支援を受けられる福祉の制度にしていく必要があります。（Y）

あらゆるさ後援会総会（4月25日）報告

あらゆるさ福祉会と共に歩んできたあらゆるさ後援会は本年7月30日で結成10周年となります。10年前に「あらゆるさの法人化を実現する会」が発展的に解消され、あらゆるさ後援会に引き継がれていきました。

4月25日の総会ではあらゆるさ後援会の10年の歩みを確認し、提案された事業・会計・役員議案が承認されました。

Ⅱ部として「あらゆるさの活動紹介」では「原木しいたけ栽培」と「花卉生産」の取り組みが写真を使ってわかりやすく報告されました。

総会の後、あらゆるさ福祉会へ施設設備の資金とし

て、あらゆるさ支援募金から986,952円と一般会計から35万円が寄付されました。

＜2015年度の役員＞

会長：野々下靖子 副会長：中川千津子・増田康夫
事務局長：松村誠 会計：安武真理 役員：稲葉薫・角摂子・真殿尊子・三浦朱葉・宮本靖子・東宮健史
会計監査：大江文子・宋明子

今年の

「みんなおいでよ～あらゆるさひろば」は
10月25日（日）に開催します



ケアホームいродり職員

荻原 義幸 さん

昨年の11月からケアホームいродりで働いている、荻原義幸と言います。

障害者福祉に関わるきっかけは、高校3年生の時に親の知り合いの無認可共同作業所(以下、作業所)の職員さんから、旅行のボランティアに誘われたことでした。最初は緊張しながら事前の施設見学に行ったのを覚えています。見学中、利用者さんから両手で目隠しをされ、最初はびっくりしましたが、気さくな人達が多くすぐに打ち解ける事が出来ました。旅行のボランティア以降は作業所と関わるようになり、19歳の時に、障害の重いグループの臨時職員になりました。

2年ほど働いてから、福祉のことを学びたいと思い、京都を離れ日本福祉大学に入学しました。大学では、学費と生活費を稼ぐため、昼働いて夜学校という生活をしながら、社会福祉について学びました。

また、障害のある学生も多く、色々な人と関わる中で人とのつながりの大切さを学びました。

あらぐさとの出会いは、14~5年ほど前に京都府下の作業所で働いていた時、きょうされんの京都支部総会や研修で、何度か名前を聞く機会がありました。

5年ほど前、京都に戻り、全障研やきょうされんの研修などであらぐさの職員さんと少し関わる機会が増えました。5年ほど白ばかりの勤務をしていたため、体調を周りからも心配されている状態でした。そして、知人からケアホームいродりを紹介していただきました。

あらぐさ福祉会に来て、半年ほどで、まだまだわからないことがたくさんあります。不慣れなところもありますが、利用者さん・家族の方・職員・関係者のみなさんと一緒に、ぼちぼちいけたらいいなと思います。これからもよろしくお願いします。

平成26年度後援会会計決算

平成27年度後援会会計予算

収入		支出		収入		支出		
繰越金	137,285	あらぐさ通信	149,550	繰越金	130,707	あらぐさ通信	200,000	
会費収入	689,000	事業費	199,909	会費収入	700,000	事業費	200,000	
事業収入	92,150	事務費	88,336	事業収入	100,000	事務費	100,000	
雑収入	67	予備費	0			予備費	130,707	
		あらぐさ福祉会寄付	350,000			あらぐさ福祉会寄付	300,000	
計	918,502	計	787,795	計	930,707	計	930,707	
収支差額(次年度繰越)			130,707					(単位円)

あらぐさ後援会 加入・募金 ありがとうございました

1月1日～3月31日 敬称略・順不同

阿部幸恵 粟野賢 石井憲生 石田充学 今井雄次
上田和美 植田進 追立富慈子 大石ゆかり 大江
恵子 大木雄大 岡崎英子 岡谷千鶴 小川貴士
荻原義幸 掛川あづさ 片山雅代 加藤陽子 金森
たえ子 金原医院金達龍 河合隆平 川辺孝子
神田千秋 神田豊子 岸孝雄 近藤健二 佐伯敏子
坂本憲哉 佐々木慎介 塩田彩 島田真弓 下路
晴香 住田珠江 高橋明裕 田沼立也 丹野かほる
丹野直次 築出邦子 東宮健史 中島悠太

西田道子 日本基督教団西が丘教会 仁村佳與子
長谷川朋子 濱中信彦 浜野亜希子 ぱんだ企画
平井多津子 藤原啓子 ベーカリーセルフイーユ
前田良子 前野久子 松村誠 丸山彰子 三浦
朱葉 水谷美穂 三谷文菜 宮本靖子 森純子
八木千代子 安井芳幸 山下敏夫 山中啓三
山根信子 山本朝栄 山本義則 山本恭子 有限
会社ヤスイカメラ 和田由起子
匿名 10名

2015年度 あらぐさ後援会

後援会費納入とあらぐさ支援募金のお願い

後援会の更新の時期となりました。会費納入と支援募金をよろしくお願ひします。
あらぐさ支援募金は、あらぐさ福祉会がすすめる「暮らしの場」づくりの施設整備を
恒常的に支援することを目的にしています。昨年度は986,952円を社会福祉法
人あらぐさ福祉会に寄付することができました。

あらぐさ後援会 個人 1口 1,000円 団体 1口 2,000円
あらぐさ支援募金 1口 1,000円

- ・同封の振込用紙をご利用ください。
- ・入金と行き違いになりました際はご容赦ください。
- ・後援会費、支援募金には「KTK あらぐさ通信」紙代が含まれています。



1992年6月5日 第3種郵便物承認（毎月1回25日発行）2015年6月18日発行
KTK増刊通巻第4303号 発行所 京都障害者団体定期刊行物協会
〒602-8143 京都市上京区扇川通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館4階
京都障害者連内 発行人 高谷修 頒価50円（購読料は会費に含まれています）

KTK
あらぐさ通信